

漢長安城桂宮2号建築遺跡B区の調査

調査区全景（北西から）

「後寝」の大規模な基壇の様子がよくわかる。昨年度調査した南側（写真右上）の「前朝」部分との間が散水をもつ天井であるのに対し、北側は埤敷の庭院となっている。なお、この写真は漢長安城の調査では初めて撮影用のやぐら（高さ約10m）を使用して撮影した。

本文 4～6 頁参照（撮影／佃 幹雄）

卵石散水と瓦組散水（北から）

東天井散水の北西コーナー。天井北面の卵石散水と西面の瓦組散水の接合部分である。卵石散水の二列の見切り石と、その内部に卵石を縦に埋め込んでいる状況がよくわかる。

中央地下通路（南から）

基壇を南北に横切る地下通路。壁面構造が失われ、本来塗り込められていた壁柱の礎石列が見える。遠景は桂宮高台(1号建築遺跡)。

平城宮の公開と整備



朱雀門の完成記念公開

1998年4月17日～26日までの10日間に、39万2千人の人々が門をくぐって訪れた。(撮影/木村 勉)



東院庭園の整備

西駐車場を中心に整備を進めた。東院西築地を生垣で標示し、小部門北から庭園の入り口にあたる西建物へ東西通路を通した。(撮影/中村一郎)

東院庭園西建物の展示替え

これまで西建物の展示は仮のものであったが、東院庭園の発掘から復原までを紹介する本格的な展示に衣替えした。隅棧八角柱の実物、組物の雛形、橋の欄干、屋根にふいた鬼瓦のレプリカなどを陳列している。(撮影/中村一郎)

